

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572208916		
法人名	有限会社 エルアイズコーポレーション		
事業所名	グループホーム 水沢の里		
所在地	秋田県山本郡八峰町峰浜水沢三ツ森カッチキ台 3-1		
自己評価作成日	平成23年9月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、日々楽しく生き生きした活力ある生活の場を提供するために、医療機関との連携、地区町村との連携を通じ様々なイベントの企画を催し家族の方々にも参加を呼びかけながら利用者個人個人の自立の支援を心がけている。
 重度認知症の方や困難事例のある方でも福祉課と社協さんと連携を密にして成功した事例が多くある。敷地内に畑があるので一緒に野菜を育て収穫し、一緒に楽しみを分かち合うよう支援している。
 ○○したという気持ちを形に出来るよう、職員はじめ、家族様の協力を仰ぎながら、その時の利用者様の気持ちを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議や町・社協との連携のもとに、地域で困っている方の救済、災害発生時に対する意見交換や協力体制、地域の方々がいずれも立ち寄り、食事や行事と一緒に楽しめる等の企画や相談、助言、協力等、町や地域が事業所と一体となり、地域に根差した活動が行われている事業所です。職員は、利用者一人ひとりを敬い、尊重され、常に利用者本位に前向きな考え方で、希望や意見・提案が実現できるように諦めず、何度も検討を重ね、実践に結び付けています。気負いは全く感じられず、自然な形で、穏やかに笑顔で、感謝の言葉を忘れることなく接する姿に、利用者の落ち着いた穏やかな表情が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同初心を忘れないよう事業所の理念を職員一人ひとりが理解し自分の言葉で表現し話せることを目標としています。	地域の方と共に笑顔と思いやりの心を持ち、支援することを理念とし、事業所内に掲示されるとともに毎朝唱和をし、共有され、実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々と会議や立ち話など利用し各種情報交換の場を設け催し事の相談、企画、参加を促している。	散歩時の会話や野菜のお裾分け、作品を持参され、お茶を一緒に楽しんだり、お神輿の立ち寄り、運動会への参加、事業所行事への招待等々、地域の一員として地元へ根差し、交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内会や地域交流会に職員が参加し、在宅での支援の方法を伝えると共に職員の学びの場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	チラシの作成、配布により家族の方や地域住民の方々の協力をいただきサービスの向上に努めている。	福祉課職員、老人会、町内会の方が委員となっており、状況や行事報告の他、委員からの提案や意見、災害時の対応の確認、独居の方との食事会、いつでも立ち寄れるような多彩な企画等、双方の協力が観られます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場福祉課との連携を密にして事故、入院退院、入居退居の状況報告を積極的に行いチームケアを大切にし支援の提供を心掛けている。	福祉課や社協との連携が密に行われ、生活保護受給者をはじめとし、地域で困っている方の受け入れや震災ボランティア体験講演会や、災害に対する地域を挙げての取り組み等、協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	専門誌やテキストを基に最新の情報の収集を行い、会議等の時に振り返り学習し利用者様の気持ちを理解した支援を提供している。	マニュアルが整備され研修も行われており、十分な理解のもと、玄関にはセンサーを取り付ける等され、身体拘束は全く行われていません。なお、研修の実施に対する記録の整備を期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による学習会を執り行い専門誌やテキストを基に学びを深め知識の向上と虐待の防止に努め細心の注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会に参加して学んだ知識を職員同士で共有し検討を重ね必要に応じ関係機関の協力をいただき支援に当たっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、疑問、質問に関しては常に連絡の取れる専用窓口(携帯番号開示)を設け対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望、クレームに関しては速やかに職員会議を開催し検討を重ね速やかに支援へ反映するよう努めている。	契約時の説明や意見箱の設置、経営者や管理者の携帯電話の番号開示、年2回の手紙による意見や要望の収集等で意見を吸い上げ、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員学習会を開催し職員個々人のアイデアを持ち寄り検討、議論を重ね運営に反映する場を設けている。	経営者が率先して職員の中に飛び込み、日頃より話しやすい雰囲気作りをされ、職員の意見や提案を話し合い、改善される等運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関しては、技術力や知識、資格等を考慮に入れ個人の努力に応じた対応とり、各種研修会などの情報を密に告示し職員同士の知識の共有や切磋琢磨に協力。勤務等に関しては一人ひとりの生活プランを重視し臨機応変な対応を心掛け環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会情報を告知、参加者には全面協力、職員独自で参加したい研修にも申告があれば全面的に協力。職員学習会を設けケアに関する疑問に対し実技指導にて対応、全体的なケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会に積極的に参加し同業者と親睦を深め情報の交換や訪問実習にて新しい知識の共有、各種イベントでの共同企画、参加で交流を行いチームケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決まり入所までの間、自宅へ伺い相談に応じ信頼関係を築いたり、家族同伴、本人に数回、来所を願い体験の場を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談専門窓口(携帯電話)を設け、いつでも連絡が取れ相談できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	職員会議を開きサマリーを基に、情報を分析、本人の希望、家族の希望を検討し満足のいくサービスを速やかに提供できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ありのままの生活、ありのままの欲求に対し真正面から取り組み、共に歩み、家族的な支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談専門窓口(携帯電話)を設け、いつでも連絡が取れ相談できるようにし、催し物や各種イベントへの参加を促し共に楽しめる場を提供、通信を作成し生活の状況を毎月お届けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や行きたい場所があるときは速やかに対応し行動できるように支援している。	週に数回出かけていた床屋の継続やかかりつけ医への受診など、これまでの関係が途切れないように支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は目配り、気配り、心配りをし孤立しないよう注意を払い利用者同士の相手を思いやる温かい気持ち、温かい心を育む手助けをし、生活歴の長い利用者と一緒に生活ができて楽しいと思っただけのように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりサービス提供ができない場合でも利用者や家族の方々とのかかわりを大切にし、いつでも相談に乗ることができ必要なときに迅速に対応することを常に念頭に置き支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中から、悩みや欲求、要望を素早くみ取り迅速に希望を実現するように支援をしている。	これまでの生活歴や家族からの情報、普段の何気ない会話の中から、思いや意向の把握に努められています。困難な場合は、表情や仕事で利用者本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーを中心に、関係医療機関との連携による情報の収集、専属ケアマネジャーとの連携による情報の収集、役場や地域住民との連携による情報の収集を行い職員会議で検討し速やかに対応が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はメモ帳を持参し情報の収集を行い、急を有する件は速やかに報告、連絡をとり相談するよう努め職員同士情報を共有し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望や本人の希望を実現するために積極的に働きかけ可能な限り多くの情報を収集、検討を重ね計画し昨日より今日、今日より明日と結果の向上を図りあらゆるアイデアを持ち寄り支援をしている。	本人や家族の意見や要望を取り入れ、職員とは毎日1時間程かけてのカンファレンスで日々モニタリングが行われ、活かした介護計画書が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の収集した詳細なデータを検分し利用者個人個人の健康状態の把握、問題行動などの早期解決、必要に応じたデータ表を作成し医療機関への報告による医療機関との連携。職員同士の情報共有によるチームケアの実践を通して支援をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報などで地元住民と交流できる行事があると参加を促し、その時の気持ちを大切に支援する		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を尊重し支援している。	これまでのかかりつけ医が継続して受診できるように、事業所で付き添い支援をしています。また、家族等へは受診後の報告が行われています。さらに協力医による往診も受けられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の心身健康状態を記録し速やかに対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は常に医療機関と連絡を取り情報を収集、退院に備え職員会議を開き内容を検討、退院後は健康状態を医療機関に提供し指示、指導をいただき支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より家族と情報を交換、共有し可能な限り家族の要望、意向を尊重し慎重に対話を重ね支援している。	継続した医療行為が発生した場合を除き、十分な話し合いのもとに情報を共有され、協力医の往診を受けながら看取り介護を行っています。また、実績もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、急事の場合は最低限の情報(血圧、状況)を取集し速やかに上司に報告、指示を仰ぎ対応に当たり必要に応じ救急搬送の手配に努めている。尚、職員は、消防署主催の普通救命講習を受講修了し急事に備え支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、地元消防署の協力のもと防災防火避難訓練を実施。震災、に備えスプリンクラーや緊急非常通報システムを設置し有事に備え協力体制を築いている。	年2回、夜間を想定しての避難訓練が実施され、地域の方々の参加協力が得られています。また、運営推進会議でも話し合わせ、災害対策には町をあげて取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを人生の大先輩と受け止め、生きてきた時代の環境、背景、状況を考慮し敬いの気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で自立支援の提供を心掛けている。	利用者一人ひとりに尊敬の念を持ち、感謝の気持ちを言葉にされ、誇りやプライバシーを損ねることの無いように、目線の位置への配慮や言葉かけが自然に行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない普段の会話や仕草、癖を通してその人のあるがままを受け入れ本人の意思を尊重した自己実現をスムーズにストレスなく自然に行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思、訴え、希望、要望を真摯に受け入れ傾聴し一人ひとりの個性を大切に支援の提供をしている。入浴、食事に関しては基となる時間割は設定しているが本人の意思や体調によりその都度、柔軟な対応を心掛けた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	旅行、遠足、温泉めぐりなど外出時の衣装や身だしなみを本人と一緒に楽しみながらコーディネートしたり、季節感を楽しめるお洒落を日々の生活に取り入れた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に食べたい物をリサーチリクエストに合わせた買い出しと一緒に楽しく行いながら残存機能の維持を支援している。	献立に対する要望や生活歴を活かしての畑づくり、野菜の収穫や調理、下ごしらえ、食卓の準備、食後の片づけ等々、本人のできることをお手伝いいただきながら、食事を楽しみなものとしている様子が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月末に集会したデータを基にカンファレンスを開き傾向と対策を検討、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が率先して歯磨きを行い声掛けにより利用者自身で口腔ケアを行っている。自力で口腔ケアが不可能な場合は職員が入念に口腔ケアを行い食べかすや舌苔の除去を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄状況を記録し個人のペースを把握、癖や仕草をチェックし声掛けにより速やかな排泄の支援をしている。	排泄チェック表によって排泄パターンを知り、さりげない声掛けや誘導によって、トイレでの排泄や失禁の減少に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員学習会を開き排泄の仕組みや便秘の仕組みを学び傾向と対策を検討、個別に悩み事や困っていることがないか相談に応じ速やかに解決するよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば時間を問わず速やかな対応ができるよう支援している。年に数回、温泉ツアーを企画、気分転換を兼ねた全員参加の旅行。	基本的には週に3回の入浴としておりますが、毎日でも入浴は可能であり、夜間入浴を希望された場合、対応もされています。また、温泉に出かけての入浴もあり、職員も共に入浴され、楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの健康状態を把握し安心、安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を配る際は必ず職員同士で確認し合い誤薬のないよう細心の注意を払っている。薬が変わった場合は注意深く様子を観察し、詳細を主治医に報告、指示に従い支援している。薬の効用、副作用に関してはいつでも情報を収集できるよう専門書を準備、職員の知識の拡大に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設敷地内に畑を作り栽培、収穫、を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	月に数回、又は本人の希望や要望により理髪店を利用したり、行きつけの商店やデパート、馴染みの温泉施設へ何時でも行ける支援をしている。	日常的な散歩や地域行事への参加の他に買い物や温泉、ボーリング、ドライブ等々、利用者や職員の企画を取り入れ、積極的に外出支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーを企画したり移動販売車を利用し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お盆、正月、ゴールデンウィーク等の帰省、祝い事や本人の身辺状況を普段の何気ない会話を通して常日頃から把握し迅速な対応を心掛け支援をしている。受け取る手紙に関しては個人のプライバシーを尊重し直接本人へ手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてコーディネートにメリハリをつけ季節感が出るよう支援している。	床暖房設備を取り入れ、広々としたホールにはテーブル席の他にソファや小スペースを設ける等、思い思いに過ごせる居場所の確保があり、季節感を表す作品や植物の配置、写真の展示等、居心地の良い空間づくりに工夫が観られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	いたるところにスタイルの異なる椅子類を設置どこでも寛げるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に、在宅時に使い慣れたものや見慣れたものを設置したり当時流行った歌や音楽を流し思い出に浸れるよう支援している。	テレビや筆筒、マッサージチェア等、身の回りで必要なものが持ち込まれ、利用者同士が居室訪問したりしており、各自が居心地良く過ごせるような工夫が観られます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を把握し月単位でカンファレンスを開催、月々の情報を持ち寄り検分、議論を重ね、リスクマネジメントを徹底、個人と全体を考慮に入れた環境の整備、体操やレクリエーションを通じた機能の維持、回復、向上を考慮した支援を行っている。		